

福島市保健所 重点事業
(令和6年度実績と令和7年度進捗状況)

令和6年度実績と令和7年度進捗状況

担当課・係名		保健総務課 地域医療政策室 地域医療係
1	事業名	子どもの医療確保対策事業

福島市保健所運営基本方針

該当する方針	(1)健康なまちづくりの推進 ②総合的な保健・医療・福祉システムの構築 (5)企画及び調整機能の強化 ①地域保健医療等に関する総合的な企画力の推進
--------	------------------------------------------------------------------------------

1 目的

2040年にかけて85歳以上人口を中心とした高齢化と担い手の減少が見込まれている。
関連する問題として、令和5年度に、小児科休日当番医で空白日が発生した。背景に高齢化に伴う小児科開業医の減少が進んでいて、市内医療従事者による体制維持が困難になっていた。
このため、まずは小児医療体制の充実を図り、安心して子育てができるまちづくりを目指す。

2 事業概要

令和5年度から引き続き、小児科診療所開設支援やオンライン診療の活用などを展開した。
並行して、将来に備えた効果的・効率的な医療提供体制を構築すべく、小児科以外でもオンライン診療の活用を試みた。

3 令和6年度実績(「令和7年度版保健衛生事業の概要」p31～p32)

小児科診療所開設支援補助により、新規開設が2件、承継が1件あった。
オンライン診療については、小児科ではゴールデンウィークと年末年始の大型連休のほか、感染症の流行により1月の連休にも追加開設を行い、合計12日間で421件の利用があった。また、小児科以外では、高齢者施設(サービス付き高齢者向け住宅等)の入居者向けにも試行的に導入したが、診療実績は2件だった。

4 課題

小児医療体制については、小児科診療所の開設が続き、小児科休日当番医を安定運営できるようになったため、十分な成果を得られたと考える。

一方で、限りある医療資源を上手に活用することも重要であり、市民に適正受診を習慣づけてもらう必要がある。

また、人口構造の変化による様々な問題(例:高齢者救急の増加)は今後も顕在化することが見込まれているため、小児科以外にも意識しながら将来に備えた体制構築を進める必要がある。

5 令和7年度 実施状況・中間評価

(1) 小児科診療所開設支援補助事業による開設状況

- 5月に さくらお子さまクリニック が開設済み
- 7月に ぼのキッズクリニック が開設済み
- 12月に はなもも小児科クリニック が開設予定

(2) 家庭の看護力醸成セミナー「小児科の先生に聞く！こどもの上手な医療のかかり方」を開催

- 8月3日に、子育て中の保護者 43人 が参加

【事業番号1】子どもの医療確保対策事業

①【福島市の小児科】子育て世帯の方へ、福島市は小児科医療も充実しています！

今年2月に公開された福島市移住公式note記事



【福島市の小児科】子育て世帯の方へ、福島市は小児科医療も充実しています！

 福島市移住公式note
2025年2月17日 15:00

皆さんこんにちは、福島市移住公式noteです。

移住を検討するうえで気になるのは、「医療体制の充実」。

特に子育て世帯の方にとっては、**小児科医療**がどのくらい充実しているのかが気になるポイントだと思います。

福島市では近年、小児科医療の提供体制を充実させるべく力を入れています。いったいどんな取り組みが実施されているのか、どんな診療体制があるのかということをこの記事で知っていただけたらうれしいです。

福島市移住公式note

QRコード



②家庭の醸成力セミナー

家庭の看護力醸成セミナー

小児科の先生に聞く！
こどもの上手な医療のかかり方

2025
8/3 日
11:00～12:00

会場 ▶ 福島市保健福祉センター
5階 大会議室

対象 ▶ 福島市内で子育て中のかた

問合せ ▶ 福島市保健所保健総務課 地域医療政策室
☎ 024-572-7602

定員
70名
(先着順)

参加
無料

事前申込制
申し込みフォーム
▲申し込みフォーム

講師 ▶ すやま かずひで
陶山 和秀 先生

すやまキッズクリニック

センター4階に託児所を開設します
申し込みフォームに、
希望の有無を入力してください。

魚が出てもけと
目撃者！
どうしよう？

夜中におう吐！
しばらく
様子を見る？

こどもの様子が
気になる
少し心配だな

●主催／福島市 ●共催／一般社団法人福島市医師会

令和6年度実績と令和7年度進捗状況

担当課・係名		保健総務課 放射線健康管理係
2	事業名	放射線健康管理事業

福島市保健所運営基本方針

該当する方針	(1)健康なまちづくりの推進 ③感染症、食品衛生、医療等のリスクコミュニケーションの取り組み (4)健康危機管理拠点としての機能強化 ②福島市保健所における健康危機管理の対象分野
--------	----------------------------------------------------------------------------------------------

1 目的

市民の放射線に対する不安軽減を図るとともに健康管理を行う。

2 事業概要

- (1)ホールボディカウンタによる内部被ばく検査
- (2)ガラスバッジや電子式積算線量計による外部被ばくの測定
- (3)放射線と市民の健康講座開催や相談員による個別相談

3 令和6年度実績(「令和7年度版保健衛生事業の概要」p39～p43)

- (1)内部被ばく検査の受験者数:6,534人(学校巡回、地区巡回等を含む)、ガラスバッジによる外部被ばく検査の受験者数:339人
市健康管理検討委員会の評価:
①内部被ばく検査:預託実行線量は全員1ミリシーベルト未満であり「健康に影響を与えるような数値ではない」との判断。
②外部被ばく検査:3カ月で測定された線量より推定した年間積算線量からは、「将来、放射線によるがんの増加などの可能性は少ない」との判断。
- (2)放射線と市民の健康講座:6回開催 受講者189人
- (3)放射線と健康管理に関するアンケート調査実施

4 課題

- (1)内部被ばく、外部被ばく検査の受験者は開始当初からみると減少傾向にあるが、アンケートの結果からは健康不安を感じる市民が一定割合いることから、不安軽減を図るために検査体制を検討した上での検査継続と正確な情報の提供が必要である。
- (2)令和6年度に実施した市民向けアンケート・保護者向けアンケートの結果や福島市健康管理検討委員会の見解を基に、令和7年度に福島市健康管理実施計画を改定する。(令和8年4月～)

5 令和7年度実施状況

- (1)内部被ばく検査・外部被ばく検査・放射線と市民の健康講座・相談員による個別相談の継続
- (2)福島市健康管理実施計画の改定作業

【事業番号2】放射線健康管理事業

①放射線と市民の健康講座



②内部被ばく検査(ホールボディカウンタ車)



令和6年度実績と令和7年度進捗状況

担当課・係名		衛生課 食品衛生係
3	事業名	食中毒の年間発生件数の抑制による食の安全の確保

福島市保健所運営基本方針

該当する方針	(1)健康な街づくりの推進 ③感染症・食品衛生・医療等のリスクコミュニケーションの取り組み (4)健康危機管理拠点としての機能強化 ②保健所における健康危機管理体制の対象分野
--------	--------------------------------------------------------------------------------------------

1 目的

食中毒の年間発生件数を抑制することにより、食の安全を図る。

2 事業概要

食中毒の発生件数を減少させるため、食品衛生監視員による営業施設等の衛生監視及び衛生指導を実施する。また、食品事業者等を対象とした衛生講習会を開催し、食品衛生の正しい知識を普及する。

なお、営業施設等の衛生監視及び衛生指導並びに食品衛生講習会については、「福島市食品衛生監視指導計画」に基づき実施する。

3 令和6年度実績(「令和7年度版保健衛生事業の概要」p49～p54)

○卸売市場・大型小売店、大規模製造加工施設、観光地関連施設及び大量調理施設等の影響の大きい施設を含め延べ1,703件の許可施設の立ち入り検査を実施。

○食品等事業者、食品関連従事者及び市民を対象に衛生講習会を44回開催。

○飲食店(12月)や魚類販売業(1月)の施設に対し食中毒予防に関する巡回指導(計78施設)を実施。

4 課題

毎年、一定数の新規食品事業者の参入があり、食の安全を確保するために、食品事業者への衛生指導や消費者への衛生思想の普及を継続的に実施する必要がある。

5 令和7年度 実施状況・中間評価

(実施状況)

○卸売市場・大型小売店、大規模製造加工施設、観光地関連施設及び大量調理施設等の影響の大きい施設を含む延べ959件の許可施設への立ち入り検査を実施。

○食品等事業者、食品関連従事者及び市民を対象に衛生講習会を21回開催。一部の講習会については、動画視聴による受講体制を構築し、受講者数の増加を図った。

○市広報誌や市公式LINEを活用し、一般市民向け、食中毒予防に関する情報を発信し、注意喚起を行った。

(中間評価)

前期の市内の食中毒発生件数は9月末時点で1件であった。現時点で、有症苦情※の報告も昨年度と同傾向が見られ、食中毒もすでに1件発生しているため、後期は冬季に報告が増えるノロウイルス食中毒事案を抑制すべく、引き続き監視指導や衛生講習会の開催等を通し、事業者等への注意喚起を行っていく必要がある。

※有症苦情:食品を食べて体調を崩したとして保健所に報告があったもの。調査を進めて原因施設や原因物質が判明したものが食中毒となる。

参考

区分	令和6年度	令和7年度(9月末時点)
食中毒	2	1
有症苦情	45	15

【事業番号3】食中毒の年間発生件数の抑制による食の安全の確保

○許可施設 立入検査時の指摘事例



- ・確認事項:値引きシールによる食品表示のマスク
- ・リスク:アレルギーが確認できないことによる食中毒の恐れ
- ・指導事項:値引きシールの適切な貼付



- ・確認事項:空調のほこりの蓄積
- ・リスク:カビの発生源・食品等への異物混入の恐れ
- ・指導事項:定期的な清掃



- ・確認事項:冷凍庫の霜の蓄積
- ・リスク:冷凍機能の低下による微生物の増殖の恐れ
- ・指導事項:定期的な霜の除去



- ・確認事項:販売温度の逸脱
- ・リスク:微生物の増殖の恐れ
- ・指導事項:機器の性能に応じた適切な陳列

令和6年度実績と令和7年度進捗状況

担当課・係名		感染症・疾病対策課 難病支援係
4	事業名	指定難病患者等支援事業

福島市保健所運営基本方針

該当する方針	(1)健康なまちづくりの推進 ①市民総ぐるみの健康づくり～健都ふくしま創造事業 ②総合的な保健・医療・福祉システムの構築
--------	--------------------------------------------------------------------

1 目的

難病の患者に対する医療等に関する法律に基づき、難病患者及び家族が安心して生活を送るための環境整備、適切な医療が提供されるための支援、難病に関する啓発の推進等を行う。

2 事業概要

- (1)指定難病医療費助成に関する新規・更新等の申請受理・進達等
・指定難病:348種類／市内の受給者症所持者 2,260名 ※8月25日現在の受給者証更新対象者
- (2)難病患者・家族に対する相談事業
・窓口や電話、家庭訪問による相談を実施
- (3)難病患者・家族を対象とした医療講演会・交流会の開催
・患者や家族が参加し、療養生活の知恵や悩みを共有
- (4)難病対策地域協議会
・委員11名(学識経験者、保健・医療関係、介護・福祉関係、患者・家族等)
- (5)難病サポーターの募集・研修等 ※R6年度未登録者数:74名
- (6)難病患者(人工呼吸器装着者)の災害時個別支援計画の策定
・対象者7名、R6年度までに3名策定済、R7年度末までに全員策定完了の見込み
- (7)【新規】難病の日記念イベントの開催、難病ガイドブックの作成

3 令和6年度実績(「令和7年度版保健衛生事業の概要」p70～p71)

- (1)申請受理・進達等 延べ3,857件
- (2)相談事業 延べ4,679件
- (3)講演会・交流会
6/23(日) パーキンソン病について理解を深めよう(守谷新 医師)
8/25(日) おうちでできる日常動作改善体操(吉井雅彦 健康運動指導士)
2/ 8(土) 炎症性腸疾患について(鬼澤道夫 医師) ※県との共催事業
3/ 2(土) 難病リフレッシュ講座(渡辺さつき 健康体操指導士)
- (4)難病対策地域協議会 2回開催
難病患者の支援体制に関する課題等について協議を行った。
- (5)難病サポーター講座(防災編)
・R7年1月開催、防災講話・非常食体験、フリートーク「難病の方の災害への備え」ほか
- (6)災害時個別支援計画 策定1名

4 今年度の課題等

- (1)難病に関する正しい知識の習得と啓発
- (2)診断までに要する時間の短縮と診断後の支援体制の整備
- (3)災害時個別支援計画 策定の推進

5 令和7年度実施状況・中間報告

- (1)申請受理・進達 延べ1,466件
- (2)相談事業 延べ1,928件
- (3)講演会・交流会
8/30(土) テーマ:膠原病と薬について
講 師:福島薬剤師会 代表理事・会長 けや木薬局 白石丈也 さん

(4) 難病地域対策協議会

- ・R7年7月に第4回協議会を開催し、市独自の難病ガイドブック作成へ向けた協議等を行った。
- R8年1月に第5回協議会を開催予定。

(5) 難病サポーター講座 R8年2月に開催予定

(6) 災害時個別支援計画 2名作成済、1名作成中

(7) 【新規】難病の日記念イベント 5/25(日)

内容 ① 難病サポーターによるウェルカムミュージック

② 講演・演奏 テーマ: 難病とともに暮らすこと～繊維筋痛症や慢性疾患を抱えて生きる～
講 師: 繊維筋痛症患者 中島蒼さん

③ リラックス体操講座 講師: ヨーガ療法士・健康体操指導士 渡辺さつきさん

④ フリートーク ほか

○ 中間報告

難病法施行10周年を記念した「難病の日記念イベント」の開催により、広く市民へ難病について周知することができた。引き続き、災害時個別支援計画の策定及び訓練の実施、地域対策協議会での協議による市独自の難病ガイドブック作成等、患者の支援体制の整備を着実に推進していく。

【事業番号4】指定難病患者等支援事業

① 5月25日 難病の日記念イベント



繊維筋痛症患者 中島蒼さんによる講演及び演奏
「難病とともに暮らすこと～繊維筋痛症や慢性疾患を抱えて生きる～」



リラックス体操講座
ヨーガ療法士・健康体操指導士 渡辺さつきさん



フリートークショー
中島さん(難病患者)と渡辺さん(ご家族)への質疑応答

② 8月30日 難病医療講演会・交流会

福島薬剤師会 白石丈也さんによる講演「膠原病と薬について」



③ 7月15日 難病地域対策協議会



令和6年度実績と令和7年度進捗状況

担当課・係名		健康づくり推進課 健康増進係・検診予防係 地域保健第一係、第二係
5	事業名	健都ふくしま創造事業

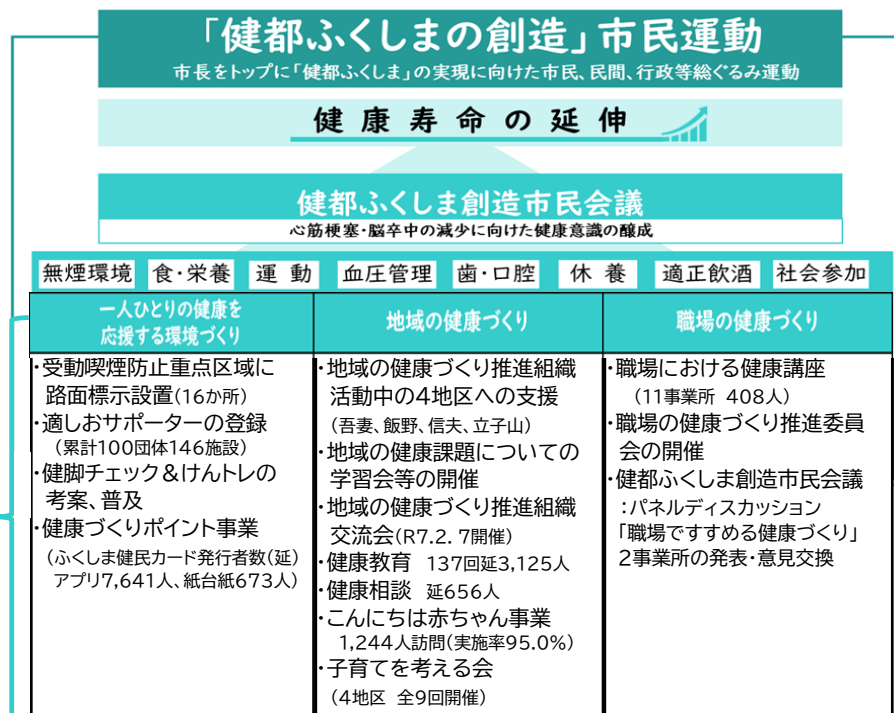
福島市保健所運営基本方針

該当する方針	(1)健康なまちづくりの推進 ①市民総ぐるみの健康づくり～健都ふくしま創造事業～
--------	---------------------------------------------

1 目的

健康寿命を延伸し、全ての市民が地域で健やかに暮らす「健都ふくしま」の実現をめざし、福島らしさを生かした健康なまちづくりを推進する。

2 事業概要



3 令和6年度実績 (概要p72～82、 p101～103)

4 課題

関係機関等とのさらなる連携のもと、福島らしい健康づくりを推進する必要がある。
(市民の意識や健康行動の把握し実態に合った地域保健活動の実施、積極的な情報発信など)

5 令和7年度 実施状況・中間評価

一人ひとりの健康を 応援する環境づくり	地域の健康づくり	職場の健康づくり
◎イベント・広報による「たのしく健脚・おいしく適しお」の周知啓発 ①GO!GO!健康体験DAY!～たのしく健脚おいしく適しお～実施(R7.8.26) ②市政だより(9月号)、テレビ市政だより(11月予定)、福島リビング新聞(9月)による周知啓発 ◎東口指定喫煙所の移設・構造変更(R7.12月上旬供用開始予定)	◎地域の健康づくり推進組織「飯坂方部健都ふくしま創造推進協議会」設立(R7年5月) ◎地域の健康づくり推進組織交流会の開催(R8.1月ごろ予定) ◎「地域の健康づくり推進組織設立」に関する資料の作成(これまでの組織設立の共通点、各地区の特徴などのポイントを整理)	◎職場における健康講座(R7.9.24月末現在 延23事業所 421人)スタート応援講座も開始 ◎テレビ市政だよりで「働く世代の健康づくり」として健脚&適しおに取り組む事業所を紹介(11月予定) ◎「働く人の健康づくり情報一覧」の作成予定(職場の健康づくり推進委員会にて)

【事業番号5】健都ふくしま創造事業

①GO！GO！健康体験DAY!! ～たのしく健脚・おいしく適しお～ 令和7年8月26日(火)市民センターにて開催



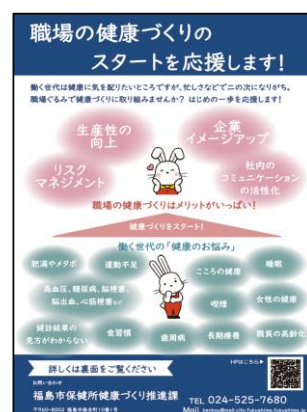
②東口指定喫煙所の移設



③飯坂方部健都ふくしま創造推進会議(令和7年5月29日設立)



④職場の健康づくり(左:株式会社クリーンテックにおける健康教室、右:職場の健康づくりスタート支援チラシ)



令和6年度実績と令和7年度進捗状況

担当課・係名		健康づくり推進課 検診予防係
6	事業名	①がん検診事業 ②国保特定健康診査等事業

福島市保健所運営基本方針

該当する方針	(1)健康なまちづくりの推進 ①市民総ぐるみの健康づくり～健都ふくしま創造事業～
--------	---------------------------------------------

1 目的

- (1)健康増進法に基づき、がん検診を実施し、がんの早期発見・治療により死亡率の減少及び市民の健康の保持・増進を図る。
- (2)国保第3期データヘルス計画・第4期特定健康診査等実施計画に基づき、特定健康診査等や保健事業の実施・評価・改善を行い、健康寿命の延伸と医療費適正化を図る。

2 事業概要

- (1)がん検診と国保特定健康診査の実施…実施期間：6月～10月(乳・子宮頸がんは12月まで)
- (2)特定保健指導の実施
- (3)糖尿病性腎症重症化予防事業
- (4)検診(健診)受診率向上のための取り組み(受診券個別送付、無料受診券送付、SMSの活用等)

3 令和6年度実績(「令和7年度版保健衛生事業の概要」p83～p96)

【受診者数、受診率】 ※：令和6年度新規取り組み ()内は令和5年度の受診率

- ・胃がん検診(50歳以上) 22,524人 35.6%(35.9%)
- ・大腸がん検診(40歳以上) 30,143人 32.6%(32.1%)
- ・肺がん検診(40歳以上) 33,507人 36.2%(35.7%)
- ・乳がん検診(40歳以上隔年) 8,092人 27.3%(26.7%)
※県と連携した乳がんバス検診の開始
- ・子宮頸がん検診(20歳以上隔年) 8,389人 25.1%(24.6%)
- ・前立腺がん検診(55～74歳隔年) 3,407人 19.2%(19.3%)
- ・国保特定健康診査(40～74歳) 17,207人 44.0%(42.3%)
※Web上で実施機関検索、電話可

4 課題

受診率の向上、がん及び生活習慣病に関する正しい知識の普及啓発

5 令和7年度 実施状況・中間評価

◎検診(健診)受診率および特定保健指導実施率向上のための取り組み

- ・土日検診(健診)医療機関のホームページ掲載
- ・SMSを使った国保特定健診未受診者対策
(WebサイトURLを添付)
- ・各地域開催の保健事業における検診(健診)の周知
※R6年度～ 機構改革により、検診予防係が健康づくり推進課へ移管
- ・乳がんピンクリボンキャンペーン
福島市乳がんセミナー「聞いて、触れて、学べる乳がんのこと」の開催
地域の保健事業で随時「乳がん自己検診」を普及



土日検診医療機関紹介HP
(ワンクリックで電話可)

【事業番号6】がん検診事業、国保特定健康診査等事業

①SMSを使った国保特定健診未受診者対策(表示例)



【福島市からのお知らせ】

市民検診は10月31日までです。まもなく受診期間が終了します。まだ受診をされていない方は、お早めにご受診ください。

受診方法等はこちらをクリック

→<https://kenko-check.jp/fukushima-city2025/>

お問い合わせ先:福島市保健所 健康づくり推進課 検診予防係 024-525-7680

◎ webサイトURLを添付。すぐに受診医療機関を探すことができる。

福島市国保特定健診HP

②各地域開催の保健事業における検診(健診)の周知



・東北保安協会における職場の健康教育
生活習慣病がテーマ



・飯野商工会女性部における乳がん触診モデルを
使った健康教育

◎ ※R6年度～ 機構改革により、検診予防係が
健康づくり推進課へ移管。検診(健診)と健康
づくりをさらに関連づけた保健活動に。

③ピンクリボンキャンペーン～乳がんセミナー～

福島市乳がんセミナー

聞いて、触れて、学べる 乳がんのこと

女性がんの中で最も罹患率が高い乳がん。
一緒に乳がんについて学んでみませんか?

**参加
無料**

日時 令和7年10月26日(日)
午前10時から午前11時30分(開場:9時30分)

会場 福島市保健福祉センター 5階 大会議室

内容 「乳がん検診を受けていますか？」
～マンモグラフィ検診のわかりやすい話～
講師:君島乳腺クリニック 医師 君島伊達 氏

「触れてみよう!乳がんセルフチェック」
～乳がんモデルを使って～
講師:一般財団法人大原記念財団 大原綜合病院
乳がん看護認定看護師 鹿目明子 氏

定員 100名(先着順) オンライン申請はコチラ

**申込
方法** オンライン、電話
もしくはFAX(裏面をご覧ください)

お問合せ:福島市保健所健康づくり推進課
電話:024-525-7680

◎ 地元医療機関の協力を得て開催。

◎ 保健福祉センター以外でも、市内各所で
セルフチェックの講座を開催。
(例:子育てサークルなど)